

# 令和7年度 幸手市ヤングケアラー実態調査報告書

令和8年3月

幸手市 健康福祉部 こども支援課

## 1 調査の目的

令和6年6月に子ども・若者育成支援推進法が改正され、国によるヤングケアラーの定義が示されるとともに、今後は国と地方公共団体が各種支援に努めることが明記されました。これを受け、幸手市においても令和7年度にヤングケアラー実態調査の実施を計画し、本調査を行いました。

本市におけるヤングケアラーへの対応については、現状、個々のケースに応じて相談支援や関係機関との連携を図りながら、支援や関わり方を模索している状況にあります。そのため、まずは実態調査を実施することにより、本市におけるヤングケアラーの状況及び支援ニーズを把握し、今後の具体的な支援施策の検討や必要な社会資源の整備につなげることを目的として、本調査を実施しました。

## 2 調査対象

幸手市内の小学校5、6年生、中学校全生徒

## 3 調査方法

小学校、中学校を通じて、児童生徒に調査のアンケート用紙を配布・回収した。

## 4 調査時期 令和7年6月

## 5 調査結果の見方

本アンケート調査には、前問の回答内容に応じて回答する「条件付き設問」が含まれています。集計の結果、当該設問の回答者数が、その前提となる前問の該当者数を上回る項目がみられました。これは、本調査が小学5年生から中学3年生を対象としていることから、設問の条件にかかわらず回答されたものが含まれている可能性があるためです。本報告では、回答者の自主的な回答を尊重する観点から、回答された内容をそのまま集計しています。このため、設問間の人数が一致しない場合があります。

## 6 在籍者数と回答状況

### (1) 小学生

	在籍児童数	回答数	回答率
小学5年生	351人	315人	89.7%
小学6年生	322人	299人	92.9%
合計	673人	614人	91.2%

### (2) 中学生

	在籍児童数	回答数	回答率
中学1年生	331人	290人	87.6%
中学2年生	344人	290人	84.3%
中学3年生	406人	365人	89.9%
合計	1,081人	945人	87.4%

※小学生、中学生ともに、在籍者数は令和7年5月1日現在（特別支援含む）

## 6 調査結果と分析

(1) 悩んでいること (別紙アンケート【問2】、複数回答あり)

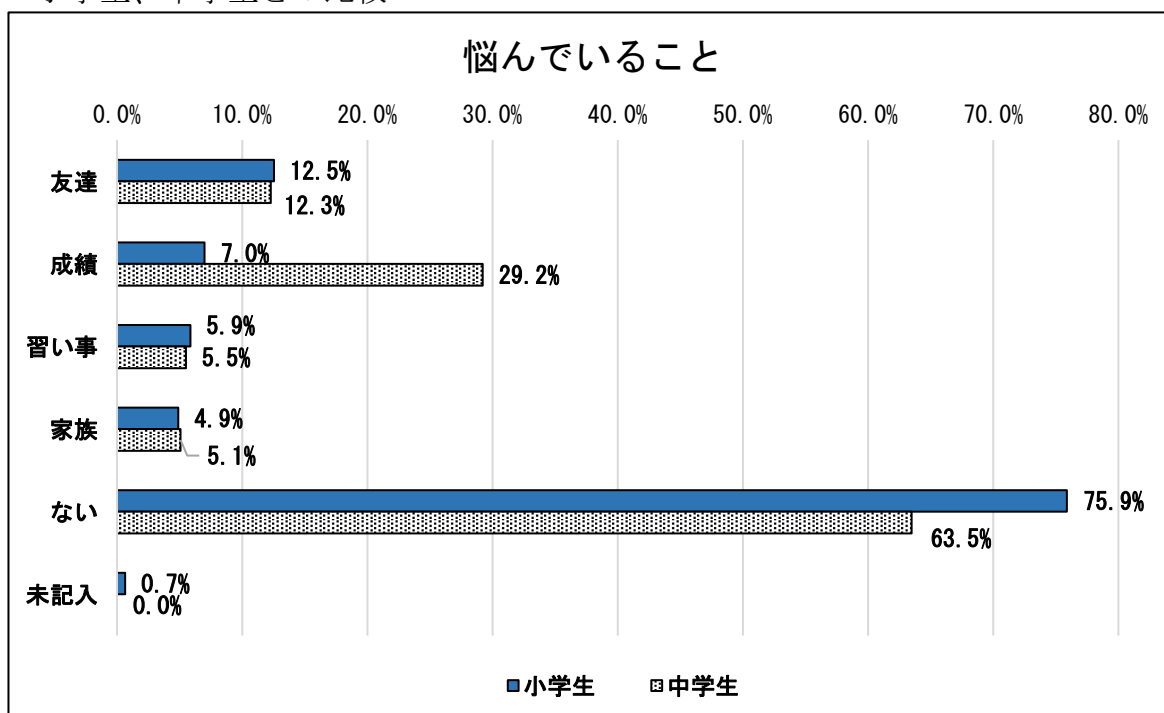
単位：人

悩み \ 学年	5年	6年	中1	中2	中3	全体
友達	35 11.1%	42 14.0%	39 13.4%	46 15.9%	31 8.5%	193 12.4%
成績	23 7.3%	20 6.7%	76 26.2%	85 29.3%	115 31.5%	319 20.5%
習い事	16 5.1%	20 6.7%	18 6.2%	17 5.9%	17 4.7%	88 5.6%
家族	14 4.4%	16 5.4%	12 4.1%	23 7.9%	13 3.6%	78 5.0%
ない	236 74.9%	230 76.9%	187 64.5%	177 61.0%	236 64.7%	1066 68.4%
未記入	3 1.0%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 0.3%

※設問における回答人数から、学年・全体での割合を表記しています

※複数回答があるため、合計は100パーセントになりません

### 小学生、中学生との比較



悩んでいることについては、全学年で「ない」と回答した割合が最も高く、全体の68.4%であった。学年別にみると、小学5、6年生では70%以上であった。中学生だけの割合では、63.5%であった。

また、小学生と中学生を比較すると、成績について悩んでいると回答した中学生が29.2%に対し、小学生は7.0%と少なかった。

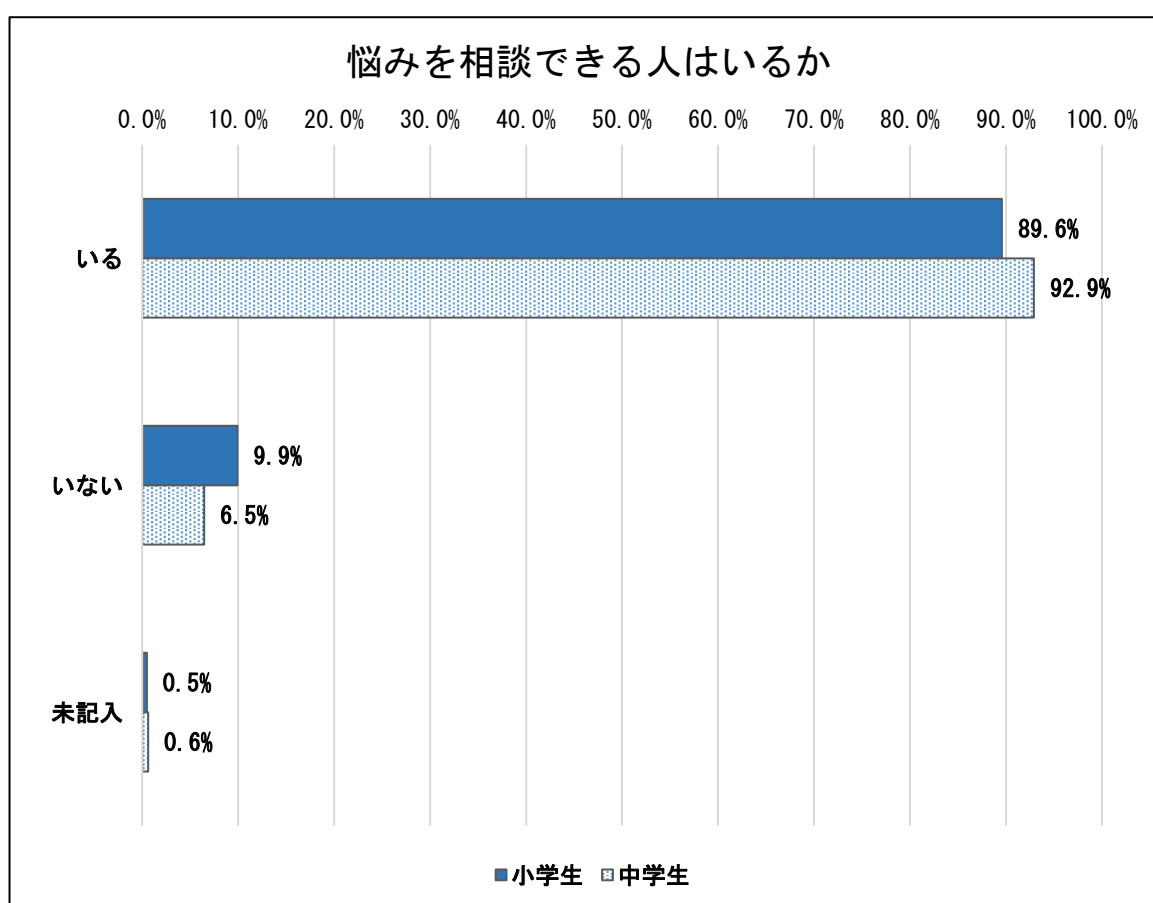
(2) 悩みを相談できる人がいるか (別紙アンケート【問3】)

単位：人

学年 回答	小5	小6	中1	中2	中3	全体
いる	282 89.5%	268 89.6%	271 93.4%	273 94.1%	334 91.5%	1,428 91.6%
いない	30 9.5%	31 10.4%	19 6.6%	15 5.2%	27 7.4%	122 7.8%
未記入	3 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.7%	4 1.1%	9 0.6%

※設問における回答人数から、学年・全体での割合を表記しています

小学生、中学生との比較



悩みを相談できる人の有無は、「いる」と回答した割合が全体の91.6%であった。  
「いない」と回答した割合は全体の7.8%で、小学生と中学生で比較すると、中学生が6.5%であったのに対し、小学生の方が9.9%と割合は高かった。

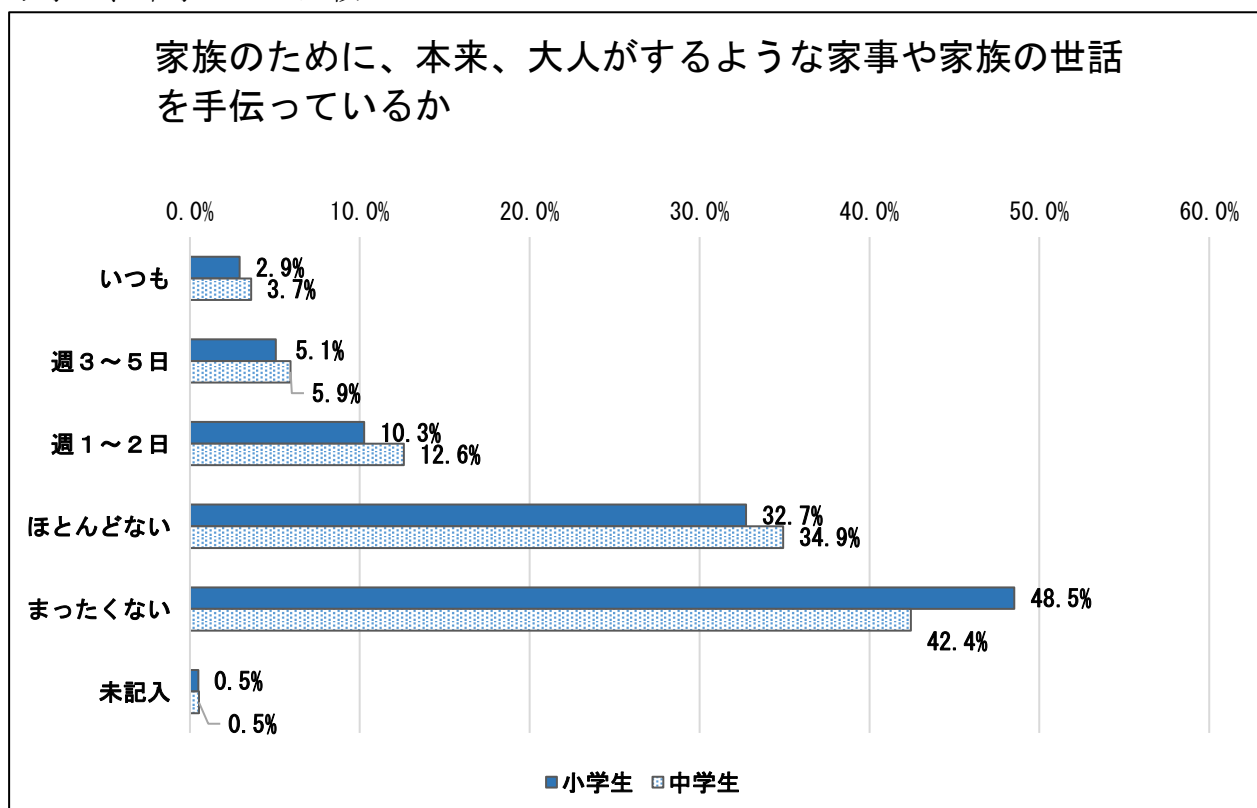
(3) 家族のために、本来、大人がするような家事や家族の世話などの手伝いを行っているか (別紙アンケート【問4】)

単位：人

頻度 \ 学年	小5	小6	中1	中2	中3	全体
いつも	13 4.1%	5 1.7%	15 5.2%	9 3.1%	10 2.7%	52 3.3%
週3～5日	23 7.3%	8 2.7%	14 4.8%	17 5.9%	25 6.9%	87 5.6%
週1～2日	36 11.4%	27 9.0%	49 16.9%	30 10.3%	40 11.0%	182 11.7%
ほとんどない	108 34.3%	93 31.1%	97 33.4%	102 35.2%	131 35.9%	531 34.1%
まったくない	132 41.9%	166 55.5%	113 39.0%	131 45.2%	157 43.0%	699 44.8%
未記入	3 1.0%	0 0.0%	2 0.7%	1 0.3%	2 0.5%	8 0.5%

※設問における回答人数から、学年・全体での割合を表記しています

小学生、中学生との比較



大人がするような家事や家族の世話などを行っているかについては、全学年で「まったくない」と回答した割合が最も高く、全体の44.8%であった。学年別では、小学6年生が55.5%と半数を超え、最も高い割合であった。

次に多かった回答は「ほとんどない」で全体の34.1%、「まったくない」「ほとんどない」のどちらかを回答した割合は全体の約8割であった。

それ以外の回答では「週に1~2日」が最も多く、学年別では、中学1年生が16.9%と最も割合が高かった。

小学生と中学生を比較すると、家事や世話などの手伝いを行っているという回答した割合が、どの頻度も中学生の方が若干多かったが、大きな差はなかった。

(4) どのような世話、手伝いをしているか (別紙アンケート【問5-1】、複数回答あり) ※条件付き設問

【参考】ヤングケアラーとは

本来、大人が担うと想定されているような家事や家族の世話を日常的に行っているこどものこと。責任や負担の重さにより、学業や友人関係に影響が出てしまうことがあります。(こども家庭庁資料抜粋)

【家族のために、本来、大人がするような家事や家族の世話とは】



①家族にかわり、りょうり、せんたくをする



②家族にかわり、おさないきょうだいのお世話をする



③歩けない家族のつきそい



④目のはなせない家族の見守り



⑤日本語を話せない家族のつうやく



⑥家族のためにアルバイトをする



⑦アルコール問題のある家族の見守り



⑧病気をかかえる家族のかんびょう



⑨障がいをかかえる家族のお世話(食事を食べさせるなど)



⑩障がいや病気をかかえる家族のかいご(トイレやお風呂の付き添い)。

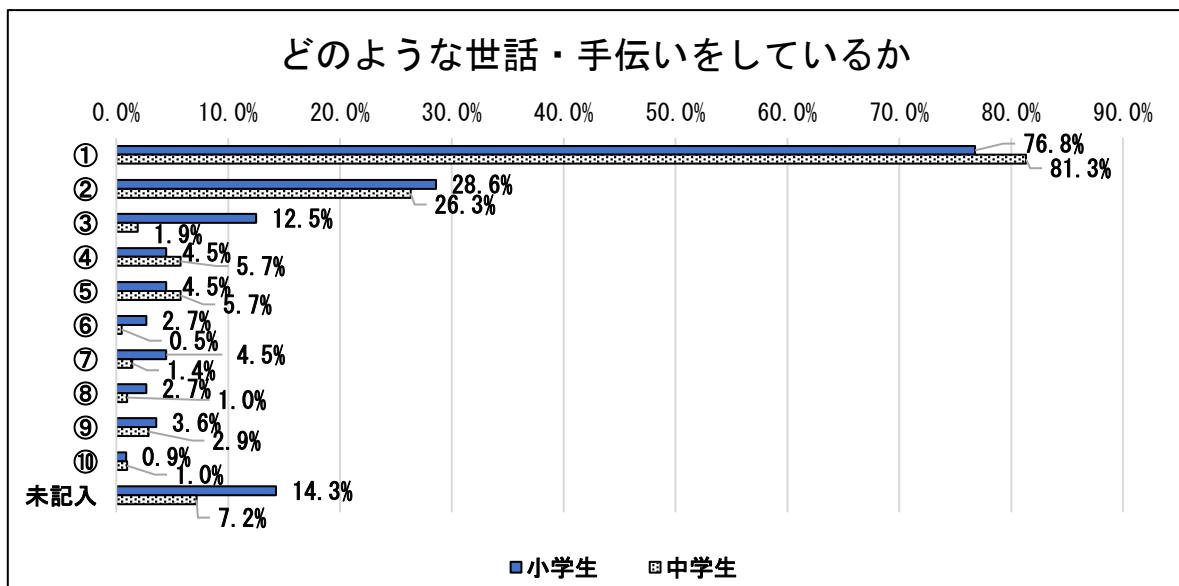
単位：人

内容 \ 学年	小5	小6	中1	中2	中3	全体
①	58 80.6%	28 70.0%	61 78.2%	45 80.4%	64 85.3%	256 79.8%
②	22 30.6%	10 25.0%	18 23.1%	18 32.1%	19 25.3%	87 27.1%
③	9 12.5%	5 12.5%	1 1.3%	0 0.0%	3 4.0%	18 5.6%
④	4 5.6%	1 2.5%	5 6.4%	4 7.1%	3 4.0%	17 5.3%
⑤	3 4.2%	2 5.0%	5 6.4%	2 3.6%	5 6.7%	17 5.3%
⑥	3 4.2%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.2%
⑦	4 5.6%	1 2.5%	1 1.3%	1 1.8%	1 1.3%	8 2.5%
⑧	3 4.2%	0 0.0%	2 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	5 1.6%
⑨	4 5.6%	0 0.0%	3 3.8%	1 1.8%	2 2.7%	10 3.1%
⑩	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	1 1.3%	3 0.9%
未記入	10 13.9%	6 15.0%	10 12.8%	2 3.6%	3 4.0%	31 9.7%

※【問4】における週1日以上の頻度で家族の世話・手伝いをやっている人数に占める各選択肢の割合を表記しています（以下（5）～（7）において同じ）

※複数回答があるため、合計は100パーセントになりません

### 小学生・中学生との比較



家庭のなかでどのような家事や家族の世話をしているかについては、①の「料理・洗濯」が全学年で最も多かった。全体の割合では79.8%で、小学生と中学生との比較では、小学生が76.8%、中学生が81.3%であった。

次に多かったのは、②の「幼いきょうだいの世話」で、全体では27.1%だったが、学年別で見ると中学2年生が32.1%で最も多かった。

小学生と中学生の比較で、③の「歩けない家族の付き添い」が、中学生が1.9%であったのに対し、小学生は12.5%と割合に差が見られた。

(5) 誰の世話・手伝いをしているか (別紙アンケート【問5-2】、複数回答あり)

※条件付き設問

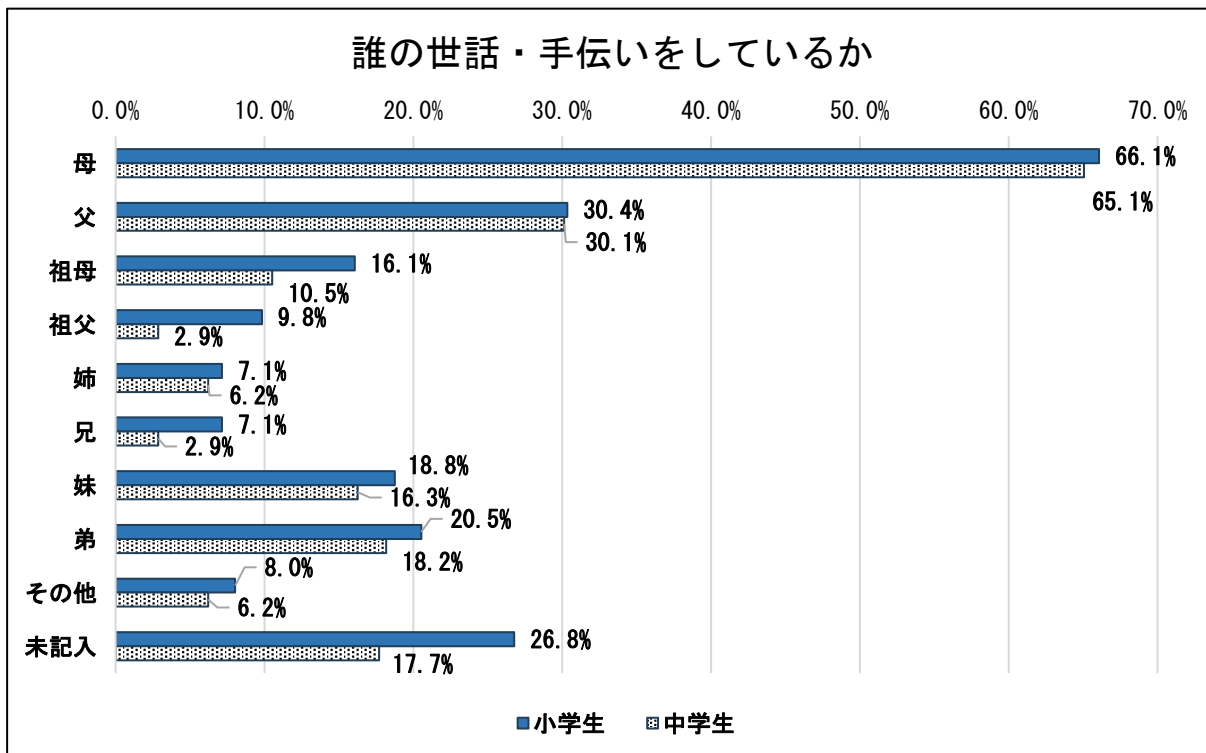
誰の

単位：人

	小5	小6	中1	中2	中3	全体
母	51 70.8%	23 57.5%	47 60.3%	33 58.9%	56 74.7%	210 65.4%
父	25 34.7%	9 22.5%	25 32.1%	16 28.6%	22 29.3%	97 30.2%
祖母	12 16.7%	6 15.0%	9 11.5%	8 14.3%	5 6.7%	40 12.5%
祖父	5 6.9%	6 15.0%	1 1.3%	5 8.9%	0 0.0%	17 5.3%
姉	4 5.6%	4 10.0%	7 9.0%	2 3.6%	4 5.3%	21 6.5%
兄	5 6.9%	3 7.5%	2 2.6%	2 3.6%	2 2.7%	14 4.4%
妹	14 19.4%	7 17.5%	10 12.8%	9 16.1%	15 20.0%	55 17.1%
弟	18 25.0%	5 12.5%	10 12.8%	12 21.4%	16 21.3%	61 19.0%
その他	6 8.3%	3 7.5%	8 10.3%	2 3.6%	3 4.0%	22 6.9%
未記入	19 26.4%	11 27.5%	18 23.1%	10 17.9%	9 12.0%	67 20.9%

※複数回答があるため、合計は100パーセントになりません

小学生・中学生との比較



誰の世話・手伝いをしているかについては、全学年で「母」が最も多く、全体の65.4%であった。小学生と中学生の比較では差は見られなかったが、中学3年生が74.7%と最も割合が高かった。

次に多かったのは「父」で、全体の30.2%という結果だった。学年別では、小学5年生が34.7%と最も割合が高かった。

反対に、最も割合が低かったのは「兄」で全体の4.4%、次に低かったのは「祖父」で5.3%であった。

その他に関しては、自由記述欄には記入がなかった。

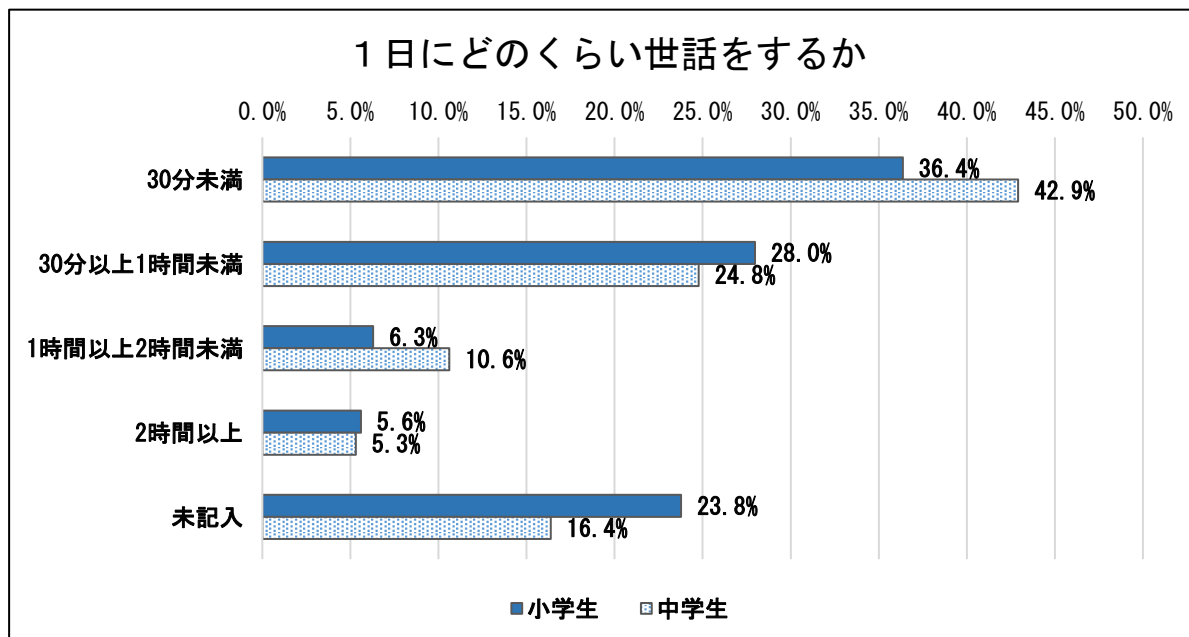
(6) 1日にどのくらい世話をしているか (別紙アンケート【問5-3】)

※条件付き設問

単位：人

時間 \ 学年	小5	小6	中1	中2	中3	全体
30分未満	33 35.5%	19 38.0%	43 48.3%	21 36.2%	33 41.7%	149 40.4%
30分以上 1時間未満	30 32.3%	10 20.0%	20 22.5%	16 27.6%	20 25.3%	96 26.0%
1時間以上 2時間未満	7 7.5%	2 4.0%	7 7.9%	7 12.1%	10 12.7%	33 8.9%
2時間以上	3 3.2%	5 10.0%	2 2.2%	4 6.9%	6 7.6%	20 5.4%
未記入	20 21.5%	14 28.0%	17 19.1%	10 17.2%	10 12.7%	71 19.3%

※設問における回答人数から、学年・全体での割合を表記しています



1日に、どのくらい家事や家族の世話をしているかについては、「30分未満」が最も多く、全体の40.4%であった。学年別では中学1年生が48.3%と最も割合が高かった。

次に多かったのは「30分以上1時間未満」で、全体の26.0%であり、学年別では小学5年生が32.3%と最も高い割合だった。

最も少なかったのは「2時間以上」で、全体では5.4%であったが、学年別では小学6年生が10.0%と比較的高い割合であった。

小学生と中学生との比較では、「30分未満」は中学生の方が多く、「30分以上1時間未満」は小学生の方が多いという結果となった。

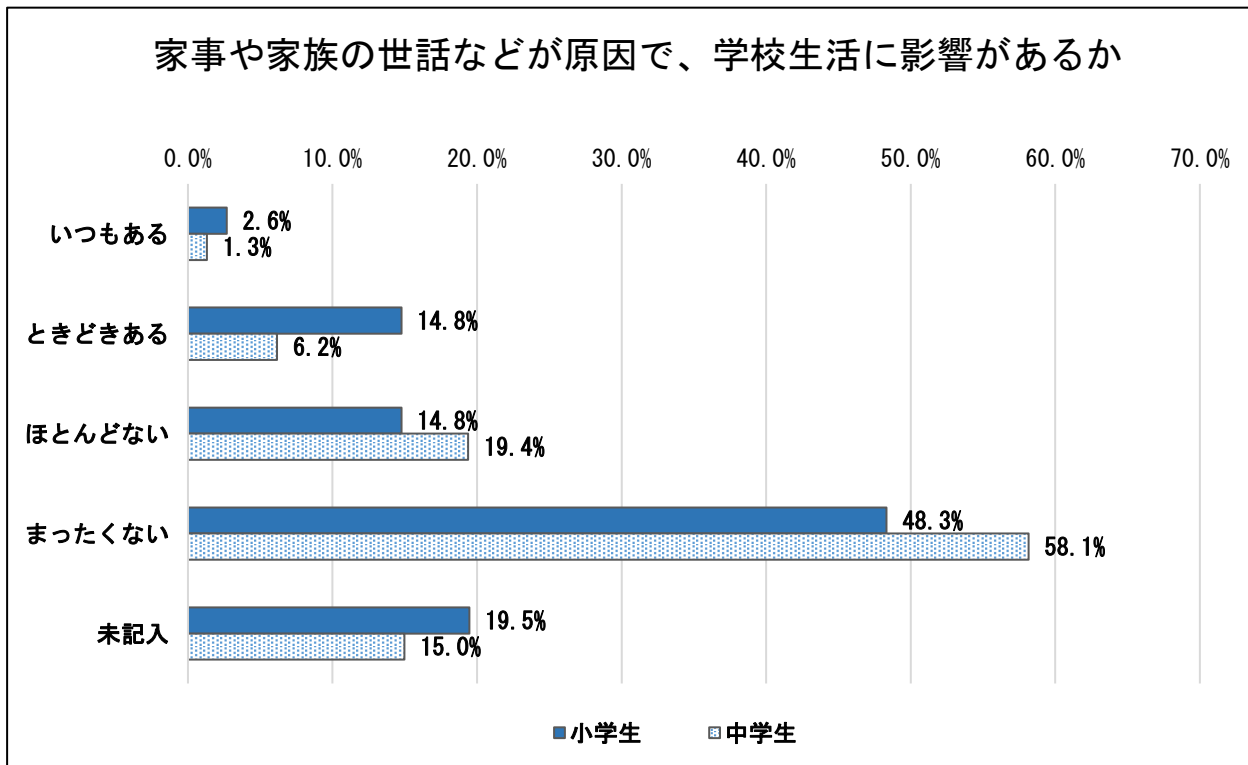
(7) 家事や家族の世話などが原因で、学校に遅刻したり、宿題ができなかったり、忘れ物が多かったりするなど、学校生活に影響があるか(別紙アンケート【問5-4】) ※条件付き設問

単位：人

学年 影響の有無	小5	小6	中1	中2	中3	全体
いつもある	4 4.2%	0 0.0%	1 1.1%	0 0.0%	2 2.5%	7 1.9%
ときどきある	19 19.8%	3 5.7%	4 4.5%	4 6.8%	6 7.6%	36 9.6%
ほとんどない	12 12.5%	10 18.9%	18 20.2%	13 22.0%	13 16.5%	66 17.5%
まったくない	44 45.8%	28 52.8%	50 56.2%	32 54.2%	50 63.3%	204 54.2%
未記入	17 17.7%	12 22.6%	16 18.0%	10 17.0%	8 10.1%	63 16.8%

※設問における回答人数から、学年・全体での割合を表記しています

小学生と中学生の比較



家事や家族の世話などが原因で、学校生活に影響があるかについては、「まったくない」が全体の 54.2% で、半数以上であった。次に多かったのは「ほとんどない」で、全体の 17.5% であり、「まったくない」と「ほとんどない」の回答だけで、全体の 7 割を超える結果となった。

回答で最も少なかった「いつもある」は、全体の 1.9% であったが、学年別で見ると、小学 6 年生と中学 2 年生が 0% であったのに対し、小学 5 年生は 4.2% であった。

小学生と中学生との比較では、「ときどきある」と回答した小学生が 14.8% であったのに対し、中学生は 6.2% と、半数以下の割合であった。

(8) 家族や学校のこと、その他困っていること (別紙アンケート【問 6】、自由記述)  
自由記述の内容内訳 (1 件に対して複数の内容重複あり)

内容	件数	内容	件数	内容	件数
友人関係	42	家族	20	学校の環境・設備	4
勉強	22	習い事	8	登校班	2
進路、将来	8	学校	6	家事・家族の世話	5
成績	12	金銭	1	その他	4
精神面	10	忘れ物	2	総計	154
クラブ活動、部活	7	体	1	(記述件数)	(127)

#### <友人関係>

- ・仲間外れ ・悪口 ・過度な弄り ・喧嘩 など

#### <勉強>

- ・勉強への不安 ・授業についていけない
- ・授業が分かりづらい ・勉強方法がわからない など

#### <家族>

- ・きょうだい喧嘩 ・父母が怒る、怒鳴る、叩く など

#### <成績>

- ・成績を上げたい ・成績が心配 ・成績が上がらない など

#### <精神面>

- ・疲れがとれない
- ・やる気が出ない ・人に嫌われているかもしれないと不安 など

#### <クラブ活動>

- ・勉強との両立ができない（勉強との両立に悩んでいる） など

#### <学校>

- ・学校に行きたくない ・学校が楽しくない
- ・学校が好きになれない など

#### <家事・家族の世話>

- ・家族の世話で勉強する時間がない ・1人の時間が持てない
- ・家族の世話で疲れる

困っていることの自由記述では、回答数が 127 件あった。内容別で見ると、「友人関係」の記述が最も多く、42 件であった。友人との喧嘩や悪口、友人とのかかわりで悩んでいる、といった内容が多く見られた。次に多かったのは「勉強」で 22 件の記載があり、「授業が分かりづらい」「授業についていけない」といった、授業に対する困り感を抱えている児童生徒がいることが分かった。3 番目に多かったのが「家族」で、きょうだい間での喧嘩や、父母からの叱責の他、「母のイライラや怒り」や「母が介護で体調が心配」など、母親に対する内容も多く見られた。

「家事・家族の世話」は 5 件であったが、「家族の世話で勉強ができない」「1人の時間が持てない」「疲れる」といった内容であった。

(9) 調査結果のまとめと今後の対応

<悩みとヤングケアラーの関係>

**悩み**

- ① ある : 31.3%      ② ない : 68.4%      ③ 未回答 : 0.3%



**家族の悩み**

- ①のうち 16.0%

<ヤングケアラーの可能性>

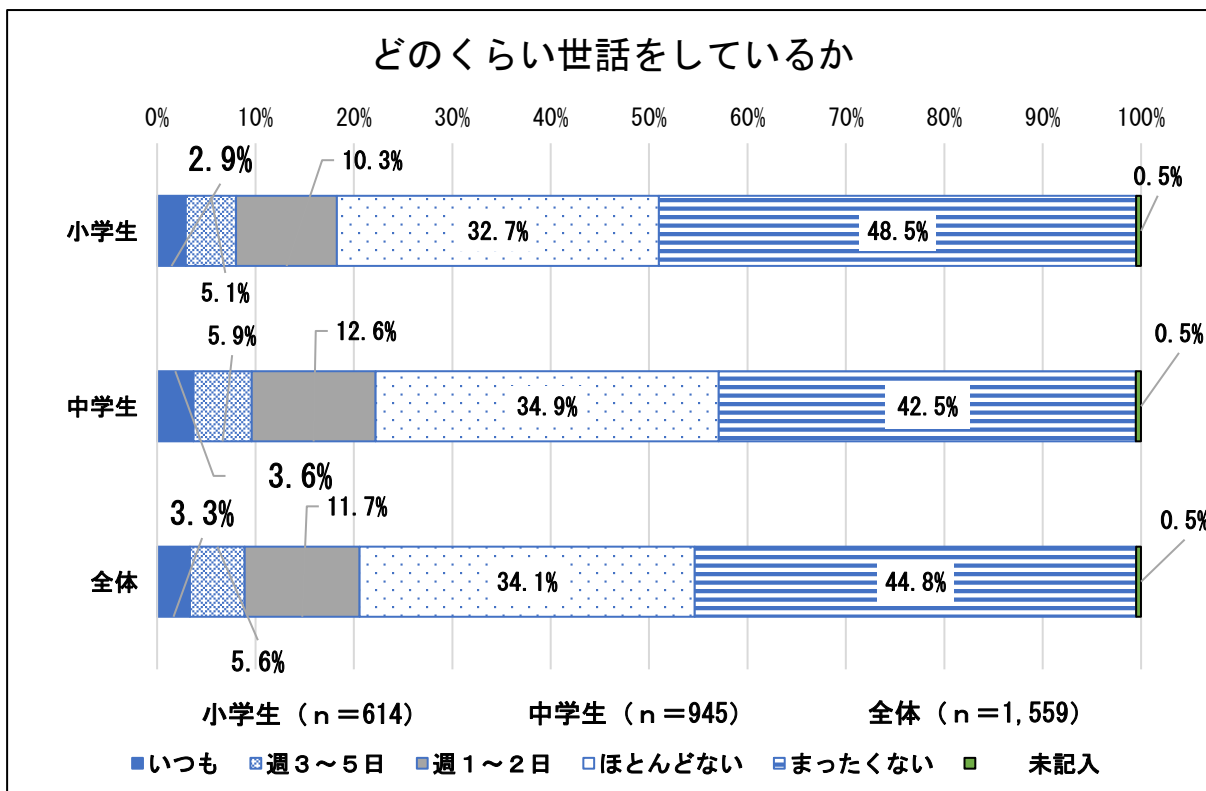
**大人がするような家事や家族の世話をしている**

- ① している (週1日以上) : 20.6%  
 ② ほとんどしていない・まったくしていない : 78.9%  
 ③ 未回答 : 0.5%



**どのくらい世話をしているか**

- いつも : ①のうち 16.2%      →      【全回答人数に対する割合】  
 小学生 : 2.9% (18人/614人)  
 中学生 : 3.6% (34人/945人)  
全体 : 3.3% (52人/1,559人)



## 学校生活への影響

いつもある：

【全回答人数に対する割合】

小学生：0.7%（4人／614人）

中学生：0.3%（3人／945人）

全体：0.4%（7人／1,559人）

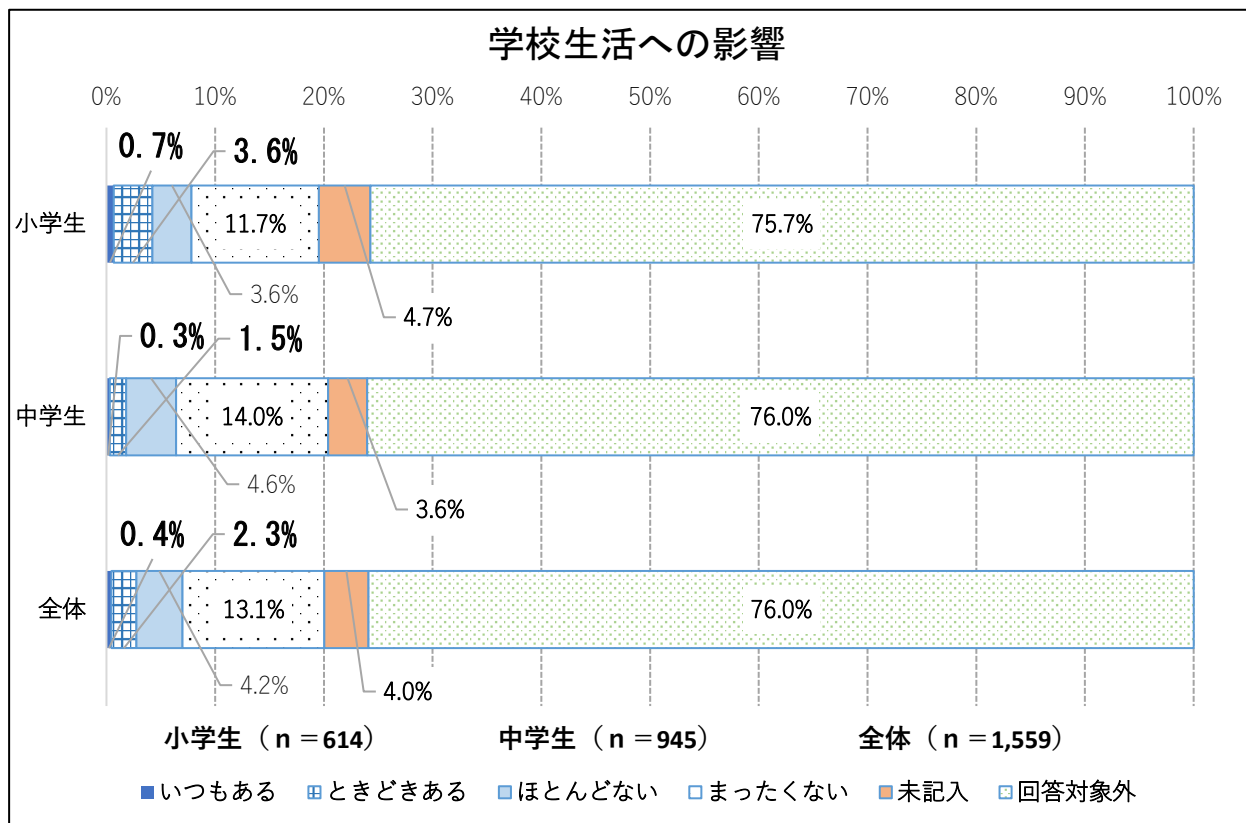
ときどきある：

【全回答人数に対する割合】

小学生：3.6%（22人／614人）

中学生：1.5%（14人／945人）

全体：2.3%（36人／1,559人）



### <まとめ>

今回の調査結果によると、悩みがあると回答した児童生徒は全体の 31.3%であり、そのうち家族に関する悩みを抱えている児童生徒は 16.0%であった。

また、大人が担うような家事や家族の世話をしている児童生徒は、全回答数の 20.6%であった。そのうち、「いつも行っている」と回答した児童生徒は 16.2%であり、全回答数に対しては 3.3%という結果であった。学校生活への影響については、影響があると回答した児童生徒は 2.7%であった。

さらに、自由記述からは、家事や家族の世話により自分の時間が確保できない、学習時間が十分に取れないなどの悩みを抱える児童生徒の存在も明らかとなった。

以上の結果から、大人が担うような家事や家族の世話をしている児童生徒は、ヤングケアラーとなっている可能性があると考えられる。特に、家事や家族の世話を担う頻度が高く、学校生活への影響が大きいほど、その可能性は高まるものと考察される。

#### <今後の対応>

ヤングケアラーとなっている可能性のある児童生徒が一定数存在している現状を踏まえ、今後は学校において児童生徒の生活環境を十分把握するとともに、個別の対応が必要な場合には関係機関と連携し、必要な支援を行っていく。

また、ヤングケアラーとなる背景や要因について分析を深めることで、具体的な支援施策の検討につなげていく。

ヤングケアラー本人やその家族は、自身がヤングケアラーの認識が十分でない場合が多く、支援につながりにくい状況がある。そのため、今後は学校や地域においてヤングケアラーに関する普及啓発を積極的に行い、理解の促進を図る。

さらに、学校や関係機関において児童生徒の気になる様子や出来事を把握した場合には、一歩踏み込んだ状況確認や丁寧な聴き取りを行い、早期の支援介入につなげる体制を整備していく。